

1. 社会・治安情勢

リオデジャネイロ州全域で拳銃，機関銃，手榴弾等を使用した殺人，強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。特に，近年，リオデジャネイロ市内に約1,000箇所存在するといわれるファベラ（貧民街）を中心に，麻薬密売組織間の銃器を使用した抗争が頻発し，治安に重大な影響を与えてきた。これを受け，軍警察は，2008年に最初の軍警察治安構築部隊（UPP）をドナ・マルタ地区のファベラに設置し，以降，大規模な制圧作戦を継続している（2016年1月現在，リオ市内に計39のUPPを設置し，267のファベラを管轄）。

UPPをはじめとした治安当局による麻薬密売組織対策活動において度々銃撃戦が発生しているほか，治安当局の取締りに反発するファベラ住民と軍警察との間の抗争も活発化しており，流れ弾による一般市民への被害も散見される。

また，依然として貧困層の若者による「アハスタウン（地引き網）」と呼ばれる集団強盗事件が市内中心部，海岸及び幹線道路沿いで後を絶たない（これまで安全と言われてきた南部地区の地下鉄内においてもアハスタウンが連続発生）。治安当局もこれらの取締りを強化しているが，法律上の問題もあり，逮捕した被疑少年の多くがすぐに釈放されてしまう等，警察による取締りが治安改善に直結していない問題がある。

本年開催される2016オリンピック・パラリンピック・リオ大会に向け，リオ州政府としても，治安を担当する公安局を中心として，一般治安の改善を最優先課題の一つとして取り組んでいるが，市民の体感治安はむしろ悪化している現状にある。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）第3四半期総括

州政府は凶悪犯罪対策に注力しており，殺人，強盗の発生数はUPPが設置された2008年以降2012年まで減少傾向にあった。しかしながら，2013年初頭から再び増加に転じ，2014年以降，その傾向が特に顕著になっている。また，窃盗総数及び犯罪総数にいたっては，過去10年間軒並み増加傾向にある。

一般治安悪化の理由については，まずは当地の経済事情の悪化が挙げられるが，相次いで新設されたUPPに多数の人員を配置したため，既存の警察署において人員不足が深刻化していることや，一昨年のFIFAワールドカップ、本年開催されるリオ2016オリンピック・パラリンピック大会といった大規模警備対策に多くの人員を割かれ，人員不足が一層顕著になったことなども指摘されている。

第3四半期においては、特に10月中、フラメンゴ地区、ボタフォゴ地区といった邦人が多く居住し、多数の日本企業が所在する南部地区において強盗事件が多発したほか、携帯電話を狙った強盗がリオ市全体で前年の2倍以上に増加するなど体感治安の悪化が懸念されている。

2014年のリオ市の人口10万人当たりの犯罪発生率は、日本との比較で殺人が約23倍（2013年は28倍）、強盗は約510倍（2013年は375倍）と極めて高い比率で推移している。

(2) リオ州・市犯罪発生状況 2015年11月（前年同月比増減数）

	リオ州	リオ市
殺人	334（-9）	85（+3）
強姦	405（-66）	+127（-24）
商業施設強盗	524（+66）	302（+22）
住居侵入強盗	113（+16）	42（-3）
車両強盗	2614（+197）	1292（+117）
路上強盗	5467（+76）	2614（-219）
交通機関内強盗	6605（+116）	339（-10）
携帯電話強盗	1165（+691）	685（+390）
強盗総数	12574（+1239）	6868（+930）
窃盗総数	13948（-68）	7390（-551）

(3) ZONA SUL 犯罪発生状況 2015年11月（前年同月比増減数）

【フラメンゴ・ボタフォゴ地区】

殺人	1（±0）
商業施設強盗	17（+11）
住居侵入強盗	3（+3）
車両強盗	12（-10）
路上強盗	121（-12）
交通機関内強盗	26（+14）
携帯電話強盗	28（+10）
強盗総数	230（+2）
窃盗総数	413（-130）

【コパカバーナ地区】

殺人	1（-1）
商業施設強盗	3（-5）
住居侵入強盗	1（-1）
車両強盗	0（-3）
路上強盗	50（-14）
交通機関内強盗	1（-7）
携帯電話強盗	8（±0）

強盗総数	91 (-48)
窃盗総数	539 (+38)

【イパネマ・レブロン地区】

殺人	1 (+1)
商業施設強盗	4 (+1)
住居侵入強盗	1 (-3)
車両強盗	3 (-5)
路上強盗	41 (-36)
交通機関内強盗	7 (±0)
携帯電話強盗	6 (-5)
強盗総数	75 (-68)
窃盗総数	313 (-149)

3. 一般事件等（邦人の安全に関係するものを抜粋）

(1) ニテロイ地区のスラム街における殺人事件

10月3日午後8時ころ、リオ市レメ地区在住の老夫婦（夫70歳、妻69歳）がニテロイ市内で道に迷い、ニテロイ地区で最も危険と言われる、カラムージョ・スラム街「AV. QUINTINO BOCAIUVA」ファベラに入り込んだ。

夫婦はファベラ内で突如マフィアと思われるグループに襲われ、身の危険を感じた夫が車両を発進させたところ、いきなり20発余りの銃撃を受け、助手席に乗った妻に約3発が命中、運転していた夫も怪我をした。

夫はそのまま近くの AZEVEDO LIMA 病院まで車を運転し、治療を受けたが、妻は病院内で死亡した。

(2) ラゴア地区でけん銃使用の強盗事件

10月6日午前0時頃、リオ市ラゴア地区SATURNINO DE BRITO(サトルニノ・デ・ブリト)通りのピザレストラン「MAMMA HAMA」において3名の武装した強盗グループが押し入り、従業員に金品を要求した。当時、店内に客はおらず、また、従業員も抵抗しなかったが、犯人の一人（20歳位）が発砲し、警備員一名が怪我をした。犯人はレジの現金全て（約900R\$）を奪うと、そのまま逃走した。

(3) パヴァオンパヴァオジーニョ・ファベラで銃撃戦

10月24日（土）午前11時頃、リオ市イパネマ地区に所在するパヴァオパヴァバオジーニョ・ファベラ（スラム街）において軍警察UPP隊員が巡回中に麻薬密売組織との銃撃戦が発生。銃撃戦で、UPPは同ファベラにおける麻薬密売組織のリーダーとみられる30歳の男一名を射殺、他少年1名（15歳）が手に大怪我をして近くの市立病院に搬送され、手当を受けている。

この銃撃戦による流れ弾により、同スラム街近くの住宅街の建物の玄関、窓、壁等が被害を受けた。また、銃撃戦の影響により、同スラム街とコパカバーナ地区とイパネマ地区とを結ぶトンネルが数時間にわたって封鎖された。

近くの住人によれば、銃声は極めて激しいもので、通常の拳銃によるものではなく、強力な機関拳銃のようなものだったとのこと。

(4) ボタフォゴ地区で車両強盗（アハスタウン）が発生

1月2日午前1時頃、拳銃を持った男4人組がボタフォゴ地区の Rua Eduardo Guinle 通り（住宅街に位置）を封鎖し、車両計4台に対して、運転手を銃で脅すなどして金品を強取した。4人組はその後、一台目に止めた車両を奪って逃走した。

(5) サント・イナシオ校前で強盗致傷事件

1月3日午後12時40分頃、ボタフォゴ地区の Rua Dona Mariana 通りに位置するサント・イナシオ校前において、同校の女生徒が学校を出たところを強盗に襲われ、ナイフで切られるなどして15針を縫う大けがを負った。同生徒は昼休みにランチを取るため学校を出るところだった。

(6) リーニャ・ベルメーリャ通りにおけるアハスタウン（集団強盗事件）

1月5日午後5時25分頃、イーリャ・ド・フンダオン (Ilha do Fundao) 付近を空港方面へ向かう車線において、男3人組が拳銃を用いて複数の車両を襲った。その後、州文民警察の車両が現れ、犯人グループとの銃撃戦に発展した。現場に居合わせた記者によれば、少なくとも4発の銃声が聞こえたとのこと。犯人グループ3人の内、少年とみられる1名が逮捕され、残りの2名は逃亡した。

(7) セントロ地区でバスジャックに伴う銃撃戦（3人が死亡）

1月5日午後8時40分頃、リオ市内セントロ地区のプレジデンテ・バルガス (Presidente Vargas) 通り（地下鉄プラザ・オンゼ駅近く）において、男2人組によるバスジャック未遂が発生した。

車両内に居合わせた軍警察官（私服）がこれを防ぐため、犯人に向けて発砲し、犯人の内一人はその場で死亡、もう一人も病院に運ばれたが、その後死亡が確認された。また、同バスの運転手も銃弾による死亡が確認された。

(8) リーニャ・ベルメーリャ通りにおける銃撃戦

2015年11月10日（火）午前10時20分頃、リオ市内フルキン・メンデス地区ファベラ（スラム街）（ガレオン空港から北西約5キロメートルの地点）において、軍警察UPP隊員と麻薬密売組織との間で銃撃戦が発生し、リオ市の中心部とガレオン空港とを結ぶ幹線道路であるリーニャ・ベルメーリャ通りが封鎖され、大きな渋滞が発生。銃撃戦は約30分間継続し、同道路を通行していた車両から多くの人々が逃げ出し、地面に伏せたまま悲鳴を上げるなど、現場は大きな混乱が生じた。

(9) 邦人被害等

ア 窃盗被害

9月19日午後1時頃、邦人がコパカバーナ海岸の砂浜（アトランティ

カ通り1800番地付近)で海水浴中、自分の横(砂浜)に置いておいたカバンがなくなっていることに気づいた。カバンの中にはノートパソコン、カメラ、衣類、パスポート、衣類等が入っていた。

イ 窃盗被害

11月2日深夜(22時~翌日4時までの間)、邦人がボタフォゴ地区のホテル内で眠っていたところ、手にしていたスマートフォンを何者かに持ち去られた。(泊まっていたホテルは個室ではなく、多数の国籍の人々が宿泊するオープン・フロアーであった由)

ウ カードスキミング被害

11月2日、邦人が、シティーバンクから連絡を受け、計2700レアルのカード・スキミング被害に遭ったことが判明した。同人は直ぐにカードのブロックを行ったが、直近にイパネマ地区ビスコンデ・デ・ピラジャ通りに位置するシティーバンクで同カードを使用しており、同店でスキミング被害に遭った可能性が高いとみている。

エ 強盗被害

11月6日午後1時頃、邦人がリオ市セントロ地区のカリオカ通り(Rua da Carioca)のチラデンテス広場(Praca Tiradentes)付近を歩いていたところ、黒人男性4人に囲まれ、ナイフで持っていたスマートフォンを差し出すよう要求された。邦人が素直にスマートフォンを差し出したところ、4人は足早に立ち去った。邦人に怪我はなかった。

オ 窃盗事件

11月14日午後2時頃、邦人が、コパカバーナ海岸の砂浜(コパカバーナ・パレスホテル前付近)において、カメラをたすき掛けにして座っていたところ、カメラのたすき部分を何者かが切りさき、持ち去った。被害の邦人は、いつ、誰に盗まれたのか、全く気がつかなかったとのこと。

カ 窃盗事件

11月14日午後6時50分頃、邦人がセントロ地区チリ通り(Avenida Republica do Chile)のカテドラル前付近で、スマートフォンで写真撮影をしようとしたところ、自転車に乗った14歳~16歳位の黒人の少年が現れ、邦人のスマートフォンを奪い去った。邦人に怪我はなかった。

キ 邦人の窃盗(すり)被害

12月31日午後11時30分頃、年越し花火(ヘベイリオン)見物のため、邦人観光客がコパカバーナ海岸(アトランティカ通り1702付近)を歩いていたところ、背負っていたカバンの中からスマートフォンとカメラがなくなっていることに気づいた。犯人と思われる人物が砂浜から走り去っていくのに気がつき、邦人観光客は男を追いかけたが見失った。

ク 邦人の窃盗(引ったくり)被害

12月31日午後11時55頃、ヘプブリカ・ド・ペルー通りとアトラ

ンティカ通りの交差点付近において、邦人観光客がスマートフォンで写真撮影をしていたところ、2、3人の男が近づいてきて、いきなり日本人の手からスマートフォンを奪った。邦人が呆然としていると、男達は人混みの中に消え去った。

4. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

5. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害は確認されていない。

2015年12月中、リオ州内で短時間誘拐15件（うちリオ市10件）、脅迫138件（うちリオ市62件）が発生しており、いずれも高い水準で推移している。

以上